

ハイサイ!

2024
秋号
No.3



ー沖縄こどもの国だよりー

季刊誌

ハイサイ!ー沖縄こどもの国だよりー 2024. vol. 3
Haisai-Okinawa Zoo & Museum News- 2024. vol.3

〔発行日〕 2024 年 11 月 20 日

〔発 行〕 公益財団法人沖縄こどもの国（沖縄県沖縄市胡屋 5-7-1）

〔編 集〕 金尾 由恵

〔デザイン〕 陳 佑而

編集後記

特集がカタツムリ！？と驚かれた方がいらっしゃるかもしれませんが、この小さな魅力的な生き物にも興味を持ってもらえたら本望です！

（編集：金尾由恵）

#994135

むしいろ

虫色



キアシナガバチ
Polistes rothneyi

オオアリクイ *Myrmecophaga tridactyla*

分類 有毛目アリクイ科

分布 中南米

オオアリクイは1日に約3万匹のアリを食べるといわれています。その食べ方は、少し変わっていて、アリ塚を少しずつ壊し、移動しながら行動範囲にあるいくつかのアリ塚から採餌します。

オオアリクイのありんくりんタイムは必見！

ワシントン条約付属書II

レッドリスト（IUCN：危急種）

特集

沖縄のカタツムリが絶滅する!?

ご利用案内

営業時間	開園時間	最終入園時間	閉園時間
平日	9:30 ▶	16:30 ▶	17:30
土日祝	9:30 ▶	20:00 ▶	21:00

※ワンダーミュージアムの閉館時間は、閉園時間の30分前です。

※一部の動物は閉園時間前に収容するため、見られない場合があります。
なお、収容時間を公式ホームページにてご案内しています。

休園日

毎週火曜日、年末年始(12/30～1/1)

※火曜日が祝日の場合は営業、翌平日に休園となります。

アクセス

車

- ・那覇空港から一般道で約50分
- ・沖縄自動車道で、那覇I.C.から約20分の沖縄南I.C.で降りて約10分

バス

- ・那覇バスターミナルから中の町バス停まで約1時間(系統番号23・27・31番等)、中の町バス停から徒歩約15分



公益財団法人 沖縄こどもの国

〒904-0021 沖縄県沖縄市胡屋5-7-1

tel : 098-933-4190

fax : 098-932-1634

mail : info@okzm.jp



公式ホームページ

【第1種動物取扱業の種別】 展示・販売・保管・貸出
【登録番号】 沖動展第322号・沖動販第322号・沖動貸第322号・沖動保第322号
【登録年月日】 平成19年4月24日【有効期間の末日】 令和9年4月23日【動物取扱責任者】 吉見裕子

ご利用案内

入場料	一般	団体
16歳以上	¥1000	¥800
15歳以下	無料	無料

※団体料金は、有料のお客様20名以上から適用されます。

（事前の団体予約が必要です。）

※ワンダーミュージアム入館料は無料となりました。

入場料割引	一般	団体
学生割引 高校生・専門学校生・大学生など	¥500	¥400
障害者割引	本人 ¥500 付添 1名無料	

※学生割引の適用には、学生証の提示が必要です。
※障がい者割引の適用には、障がい者手帳、精神障がい者手帳、または療育手帳の提示が必要です。

年間パスポート

16歳以上(1枚)	¥4,000
学生割引 高校生・専門学校生・大学生など(1枚)	¥2,000

※登録者で本人のみご利用いただけます。
※有効期間は発行日より1年間です。
※学生割引の適用には、学生証の提示が必要です。

沖縄こどもの国情報をチェック♪



公式noteでは、毎月1日にSNSで発信中の4コマ漫画「ハイサイ！飼育員」のバックナンバーや、ゆんたくコミュニティで配信したスタッフブログの過去記事をご覧いただけます。



公式オンラインショップ
オリジナルグッズ
取り揃えています！

沖縄こどもの国を応援してください

月額¥500からの沖縄こどもの国オンラインサポーター

ゆんたく
コミュニティ



沖縄こどもの国を応援してくださる方、大募集中！！
沖縄こどもの国の今を知り、もっと大好きになってもらい、いっしょに沖縄こどもの国を作り上げていくメンバーの方々との「交流の場」です！
本コミュニティでは、沖縄こどもの国のコアな情報をいち早くみなさまにお届けします♪

沖縄のカタツムリが絶滅する!?

2023年10月13日、沖縄こどもの国に、沖縄島・南北大東島に生息する陸産貝類（カタツムリ）3種が、新たに仲間入りしました。外来生物の影響により、これらカタツムリは野生下で絶滅の可能性が非常に高くなっています。そのため、環境省の事業として、安全な施設で避難、保護、繁殖をさせて絶滅を回避する「生息域外保全」の取り組みを進めています。この小さな生き物たちに、いま、何が起きているのでしょうか？

※現在はバックヤードで飼育しているため、ご覧になることはできません。



野生下でのアマノヤマタカマイマイ

沖縄こどもの国とカタツムリ

2023年10月、沖縄こどもの国に国内希少野生動植物種に指定されているカタツムリ3種が搬入されました。環境省の希少種域外保全事業の一環で特別な許可をとって飼育を始めるものです。現在、バックヤードにて繁殖を目的とした管理を行いつつ、研究者の森英章らや各飼育園館の担当者とのリアルタイムで情報交換を行っています。さらに、これらとは別に、沖縄県の指定希少野生動植物種に指定されているカタツムリも飼育しています。こちらは園内にも生息しているヤマタカマイマイの仲間で、沖縄県の許可をとっています。飼育員歴17年にし初めて本気のカタツムリ飼育を行うという僕の状態もそうですが、野外でのカタツムリが置かれている状況に対しても驚きを隠せません。過去の園内ガイドで「身近な生き物力タツムリ」をテーマにすることも

しばしばありましたし、自ら野外に観察に行くこともあります。それだけ普通に見られていたカタツムリですが、沖縄島の南部では7、8年前まで割と普通に見られた種が外来種の影響で激減し、一部の地域では絶滅してしまっているのです。幸い、沖縄こどもの国園内やその周辺では、まだカタツムリの生息状況は健全なようですが油断はできません。園内に生息しているヤマタカマイマイ類の状況も注視しつつ、これらの飼育下繁殖にも力を入れていきたいです。少し大きな話になりますが、地域の動物園水族館には「地元の生き物を次世代に残す」という使命がある（と思っております）ので、こういった小さな生き物の保全や普及活動は今後もしっかりと継続していかなければいけないと考えております。

さて、当園ではオオアガリマイマイ、ヘソアキアツマイマイ、アマノヤマタカマイマイ、オキナフヤマタカマイマイ、シラユキヤマ

タカマイマイ（色彩と形状から推測）の5種を飼育しているのですが、爬虫類の飼育スタッフが一括して管理しています。面白いことにスタッフそれぞれにお気に入りのカタツムリがいます。今回の導入の目的は勿論種の保全なのですが、後輩たちの「自然観」を養うという意味でもカタツムリの飼育は正解だったのかも知れません。



八重山列島に生息するヤエヤママドボタルが、沖縄島で帰化し、外来生物として沖縄島のカタツムリに悪影響を与えています。



ヤエヤママドボタルの幼虫

ヤエヤママドボタルは、本来の生息地以外では、沖縄県希少野生動植物保護条例の指定外来種です。

これ以上、分布拡大させないために！

掘った植木や、積まれた資材に、ヤエヤママドボタルが紛れている場合もありますので、他の地域に持ち出さないようにご注意ください。



ヤエヤママドボタルについて→

魅力満載！推しカタツムリ!!!

沖縄こどもの国で飼育しているカタツムリについて、飼育員に「推しカタツムリ」を聞いてみました！なんと、担当飼育員全員が異なる推しを提案。それぞれの視点で楽しむ沖縄のカタツムリの魅力をお届けします。

いくた飼育員推し!

シラユキヤマタカマイマイ

飼育員
生田 陽木



私の推しのカタツムリ、推しツムリは、シラユキヤマタカマイマイです！このカタツムリは、白雪のように真っ白でキレイで、サイズも割と大きくて見応えがあるので特徴です。生息数が年々減少してきていますが、自分の身近にも生息しているので、ゾウのエサの木を採りに行った時に、木を切ると稀についてきてくれることがあり、プチ嬉しい気持ちにさせてくれるので、私の推しツムリはシラユキヤマタカマイマイです！

※オキナフヤマタカとシラユキでは見た目の違いについてはまだよくわかっていません。正確に種を同定する場合は生殖器官の確認が必要になります。



飼育員
大城 陸晴



おおしろ飼育員推し!

ヘソアキアツマイマイ

大城が推している陸産貝類（カタツムリ）の名前はヘソアキアツマイマイです。ヘソアキアツマイマイについて紹介します。ヘソアキアツマイマイは、世界中で北大東島にのみ生息する固有亜種で、自然度の高い森林の林床に生息しています。また、特定外来生物の影響で絶滅寸前にまで激減している。環境省レッドリストでは絶滅危惧ⅠA類、沖縄県レッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類とされていてとても貴重な生き物になります。

ではヘソアキアツマイマイの推しポイントに参ります。まずヘソアキアツマイマイは上下で色が違う所に魅力を感じました。上は落ち葉などに似ている色合いなのに対して下の方は白く違う色合いでなぜ魅力だと感じたかと言うと陸産貝類（カタツムリ）は死亡してしまうと殻が白くなる事が多いので死体に擬態しているのかな？と想像が膨らむからです。



あらかき飼育員推し!

アマノヤマタカマイマイ

飼育員
新垣 里音



私の推しカタツムリは真っ白でソフトクリームのような殻が特徴的なアマノヤマタカマイマイです。世界中で沖縄島南部のみに生息する固有の樹上性陸産貝類です。一番の押しポイントとは、身近で見るカタツムリと比べ殻がソフトクリームのように白く、高い殻が一番の押しポイントです。実物を見るまでは、オキナフヤマタカマイマイが一番の推しではありましたが、初めて、アマノヤマタカマイマイの野生個体（右ページの写真）を見たその瞬間、推しのカタツムリが変わるほど美しいカタツムリです。現在、生息域の開発や国内外来生物のヤエヤマボタルの捕食により個体数が減少しています。みなさまも、きたない、きもいと思わずに、身近なカタツムリ（生き物）に目を向けると新たな発見や驚きが見つかるかもしれませんよ。



飼育員が描く
動物園の日常

動物4コママンガ ハイサイ の飼育員

ハイサイ！

今回皆さんにお話しする内容は、僕の日課とついでにオオアリクイの生態についてです。

皆さんはアリクイについてどのようなイメージをお持ちですか？舌が長いとか、アリを食べるだとか色々あると思いますが、細かく追究してみると面白い発見が色々あります！

まず、アリクイと名前が付く動物は四種類ぐらいいます。キタコアリクイ、ミナミコアリクイ、ヒメコアリクイ、そして沖縄こどもの国にるのが一番大きい種類のオオアリクイです。先程舌が長いと言いましたが、何センチあると思いますか？なんと 60 cm あるんです、成人男性の片腕の長さくらいあります！おどろきですね？

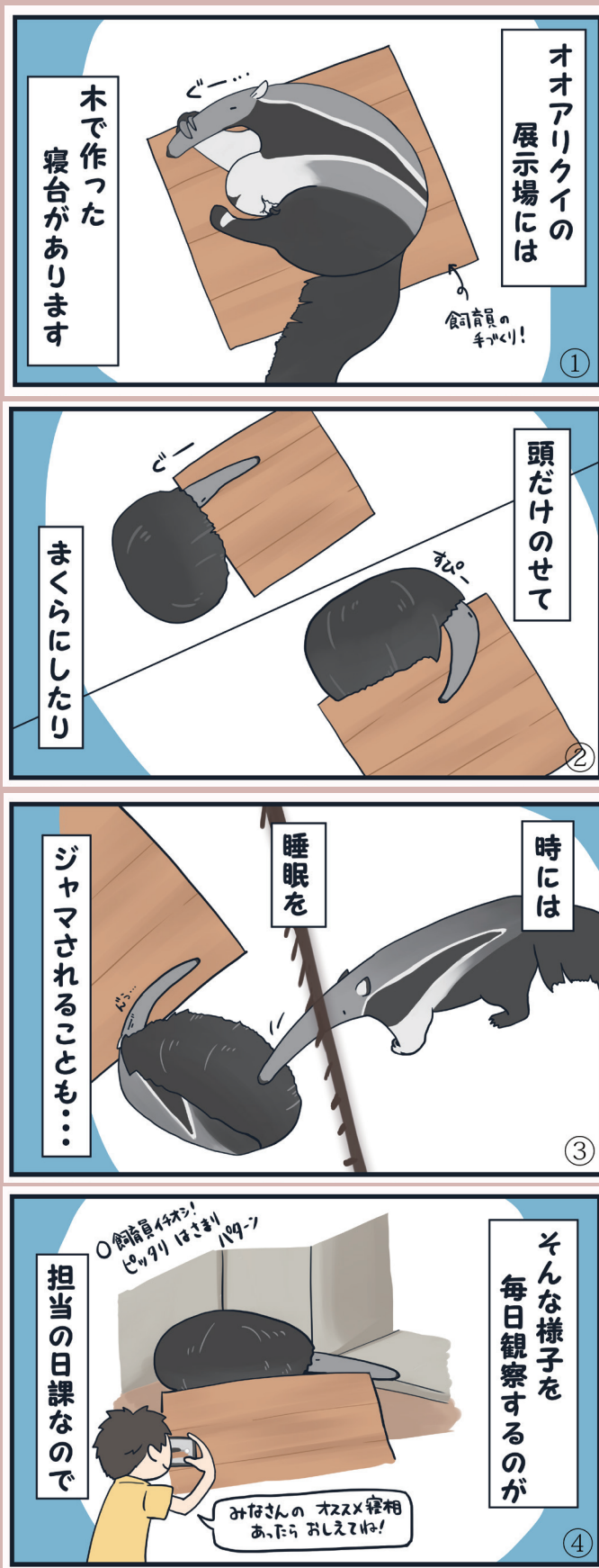
その他にも、アリを食べると言いましたが、1 日三万匹も食べるんです。動物園ではアリを三万匹もっていたら仕事が終わらないので、アリクイ専用の食虫用ペレットと馬肉のミンチと卵と粉ミルクを混ぜてスープ状にしたものをあげています、オオアリクイはとてもおちょぼ口なので、食べやすくあげています。

そして今回 4 コママンガの内容でもある、「寝ているところ」を皆さんに見せたいのですが、朝一の寝小屋の中が暖かい日の朝一展示場に出た際に見られることがあります、全頭ではなく「エミ」というメスのオオアリクイが朝一展示場に出て寝ます。良ければ暖かい日に朝一こどもの国にきてオオアリクイの寝姿を見に来てください！

飼育員
奥田 樹生



飼育員の日課 オオアリクイ編



ちんなんの樂園 復活 「方舟」のつくりかた

森 英章

一般財団法人自然環境研究センター



※環境省の保全事業として私たちが取り組んでいる小笠原諸島、大東諸島、沖縄本島の絶滅危惧陸産目類のプロジェクトの一部をご紹介させていただきました。



彼らが暮らす森が減ったことも理由の 1 つですが、今私たちが目の当たりにしているのは、本来そこにはいなかった捕食者にとどめを刺されそうになっている姿。大東ではニューギニア原産の貝食性ブラナリアに食べられ死に殻の山に。また、沖縄本島のちんなんたちは、八重山から来てしまったホタルに食べ尽くされています。驚いたことに同じ国内、隣の島からでも、新しい天敵には免疫がないようなのです。

彼らを絶滅から救うにはどうすればよいのでしょうか？皆さんの種類を丸ごと守るには、ちんなんが暮らす森ごと守るのが一番で、ブラナリアやホタルを減らせると良いのですが、まだその方法がありません。そこで、絶滅の危機にあるのはだれか、森の中でちんなんの数を数えて見極め、危ない種類を連れ帰り飼育下で繁殖を手伝います。いつか元の世界に還す日まで、「方舟」の役割を担って種の絶滅を回避するのです。でもその実現には時間がかかります。だから、ちんなんには全てマイナンバーを持ってもらい、誕生日や家族の情報も紐づけて、繁殖の組合せや子供の数も気にして、森に帰るまでに遺伝的な多様性が失われないためのサステナブルな作戦を模索しながら進めます。太平洋に浮かぶ小笠原諸島では、小さな島で多様に進化したちんなんの魅力が評価されて世界自然遺産に指定されたこともあり、先にプロジェクトが始まっています。10 年かかりましたが、私たちの元で増えたちんなんたちが野生に還り始め、成長、成熟する姿が見られるようになってきたところです。

沖縄のちんなんのピンチが本格的にわかってきたのも 10 年ほど前からです。調べるたびに彼らが殻だけになっていくスピード感は鳥肌が立つ恐ろしさでした。そこで沖縄のちんなん絶滅回避プロジェクトも立ち上がり、小笠原を手本に飼育繁殖の技術開発を急ピッチで進めました。でも私たちのもとにいただけでは、停電や病気で一気に絶滅してしまうリスクがあります。そこで、方舟はチーム体制のステージへ。沖縄こどもの国さんをはじめ、動物園・水族館の皆さんにご協力いただき、より安全で確実に絶滅回避するための取り組みがはじまりました。ちんなんたちが野生に還り、皆さんの周りに戻ってくる樂園を目指して！



高校生が挑戦！ チンパンジーの福祉 に向けた

新型採餌器具の開発



研究の第一歩

まずはチンパンジーのことを知るための行動観察。



動物園では、ここで暮らす動物たちが毎日健康で快適に過ごせるように、さまざまな工夫をしています。それでも、飼育員たちは常に「もっと動物たちの生活を良くできないだろうか」と考えながら、日々動物たちと向き合っています。球陽高校の生徒さんたちから、「動物園で動物の研究をしたい!」というご相談をいただきました。チンパンジーの暮らしをもっと幸せにしたいと考える飼育員と何度も打ち合わせを重ね、研究に組み始めました。

研究の第二步

チンパンジーの採餌時間が伸びる採餌道具の検討。



研究の第三步

採餌道具を与えたことでチンパンジーの行動に変化があるのか再度行動観察。



第二步と第三步を何度も繰り返し、生徒さんたちは研究を進めていきました。

研究を進め、「置き配・ミノムシ・チューチューロープ」と「カプセルトイ」と名付けられた特別な採餌器具を開発!



これらの器具は、チンパンジーがより活動的になり、興味を持ち、楽しむことができるように設計されています。研究結果は、これらの器具がチンパンジーの探索行動を刺激し、不適切な行動を減らす効果があることを明らかにしました。

球陽高校生物部の研究テーマとして、「チンパンジーの福祉向上に取り組みたい!」とお声がかけがあり、スタートしたのが2022年2月でした。当時の私は飼育員2年生でチンパンジーについて勉強中。チンパンジーとはなんぞやの手探り状態でしたが、どうすればチンパンジーたちがその日一日をチンパンジーらしく過ごしてもらえるのだろうかを考え、その方法を先輩から教えてもらいながら少しずつ変化を加えている時期でした。しかし時間は有限。もっと取り組む時間が欲しいなと感じていたところだったのでありがた

い申し出でした。実施にあたり、事前打ち合わせ・事前調査からスタートし、フィーダーの構想などしっかりと計画を立ててきており、当時高校1年生とは思えないくらいしっかりしている子たちだなと感じたのが最初の印象でした。それから取り組みが始まりましたが、休日はチンパンジー舎にて観察。時には平日の授業が終わってから観察と、飼育員顔負けの根性を見せてくれました。もちろんすべての取り組みが福祉向

上に繋がったわけではなく、個体によっては変化があまり見られなかったなどの課題もありましたが、この課題が学生たちのやる気をさらに引き出すなど良い相乗効果を生み出していました。もちろん、「取り組みをやったよ!」だけで終わらず、実施前と後での行動も比較したことで研究という学業の面でも動物たちが貢献できたと思います。学生たちの頑張りがあり、24時間の内、チンパンジーたちがチンパンジーらしく過ごせる時間が増えたのは本当に嬉しい事でした!

改めて振り返ってみて、一番記憶に残っている事があります。「フィーダーで餌を取りにくくする事はストレスになりませんか?」と質問された事です。現在の動物園では、当然のごとく採食時間を延ばす事が良いとされている中での質問だったので、ある意味衝撃を受けました。当たり前と思われる事に疑問を持つという事は、飼育員としての私の原点にもなっており、「それは本当に動物のためになっているか?」をまずは考えるようになった事は学生たちの影響が大きかったです。このように

響が大きかったです。このように私自身も成長できる機会を得られた取り組みでした。今回の取り組みがきっかけとなり、学生たちの進路に動物業界という選択肢が加わってくれ、将来一緒に沖縄こどもの国で働く事が出来たら取り組みとして最高の締めになるなという妄想をしながら振り返りを終わりたいと思います。

飼育員
宮城 豊希



チンパンジー
スグル



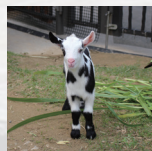
チンパンジー
モコイチ



2023.4月～2024.3月

産まりました！

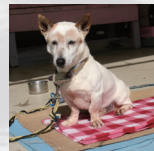
2023/4月初旬 ニホンリス
2023/4/26 オリイオオコウモリ
2023/6/24 ヤクシマザル（こぼち♀）
2023/7/1 ヤクシマザル（ちろる♂）
2023/7/3 コモンリスザル（ニイ♀）
2023/7/11 コモンリスザル（アザブ♂）
2023/8/18 ヤクシマザル（とろ♀）
2023/8/9 ジャガー
2023年10月初旬 チャボ
2024年3月23日 島ヤギ（ゴモラ♂）
2024年3月17日 ニホンリス
2024年3月21日 チャーン



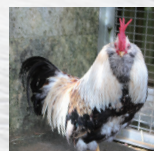
島ヤギ（ゴモラ♂）

今までありがとう。（死亡しました）

2023/4/9 シャムワニ
2023/5/20 大東犬（チャッキー♂）
2023/6/18 オオカンガルー（卯月♂）
2023/9/8 ジャガー
2023/9/29 チャーン（おおしろ♀）
2023/11/24 チャボ（チャボロ♂）
2023/12/6 オリイオオコウモリ（じゅん♀）
2024/1/8 オオカンガルー（生子♀）
2024/1/21 チャーン（きんじょう♂）



大東犬（チャッキー♂）



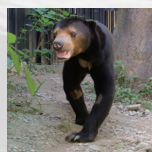
チャー（きんじょう♂）

新しく仲間が増えました！

2023/4/19 カピバラ（イリサ♀・イワナ♀）
ホンシュウジカ
2023/6/17 ニホンイヌワシ（大日♂）
2023/6/21 タンチョウ（♂1・♀1）
2023/6/24 ニトリ（チャボ）（♂1・♀1）
2023/7/7 ユーラシアカワウソ（あざみ♀）
2023/7/21 クロツラヘラサギ
2023/11/20 マレーグマ（マーネ♀）
2023/12/4 アミメキリン（ココ♀）



カピバラ



マレーグマ

新しい動物園でも元気でね（移動しました）

2023/4/20 レッサースローリス（ナミ♀）
2023/11/21 アミメキリン（光♀）



アミメキリン（光♀）

企画展開催しました！

ハ・は・歯！くらべてみよう どうぶつの歯

“生きることは、食べること。食べるためには、歯が必要？”

ということで、今回の企画展では動物の「歯」に注目しました！

私たちが食事をする時、必ず使うのが「歯」です。歯がなければ、噛みちぎったり、食べ物を小さくしたりすることができません。しかし、動物によっては食事以外で使ったり、そもそも歯がなかったり…。また、歯の生えかわり方や生えかわる回数も違ったりします。

例えば、ヤクシマザルの犬歯。オスの犬歯は立派ですが、メスには小さなものしかありません。これは、食べる時ではなく、他のオスに威嚇をする時に使用します。また、スローリスやキツネザルの仲間、毛づくろいに使用する用に、下の前歯が前に向かって伸びています。

こんな感じで、動物たちの数々の頭骨を展示し、「へえ〜…」となるような豆知識をご紹介しました。今後も、さらに進化させた内容で企画展を行なっていくしますので、どうぞお楽しみに！



ライオンの頭骨↑

飼育員
島田 晴加



動物園の動物たちの一番身近な存在、日頃お世話をしている飼育員や獣医は、動物たちのどんな表情を見ているのでしょうか。沖縄こどもの国では、毎年飼育員と獣医が撮影した動物たちの写真展を開催しています。その写真展では、一般からも公募を行い、2023年に55点の応募がありました！

その作品の中から、飼育員と獣医が選んだ当選作品をご紹介します。



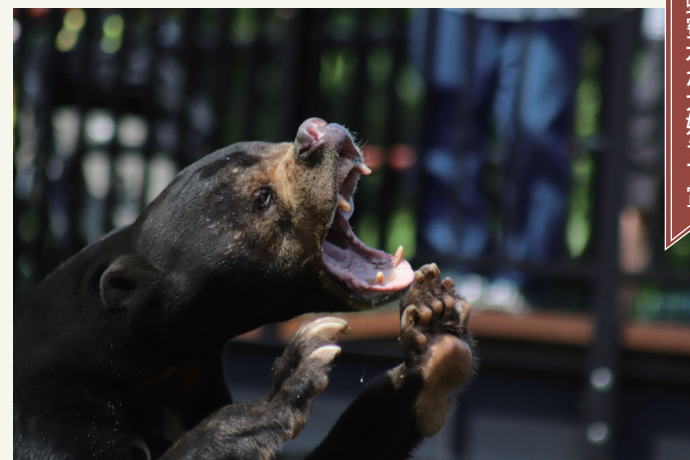
躍動感半端ないで賞

2位
ヤクシマザル
投稿者：ikumozasaba



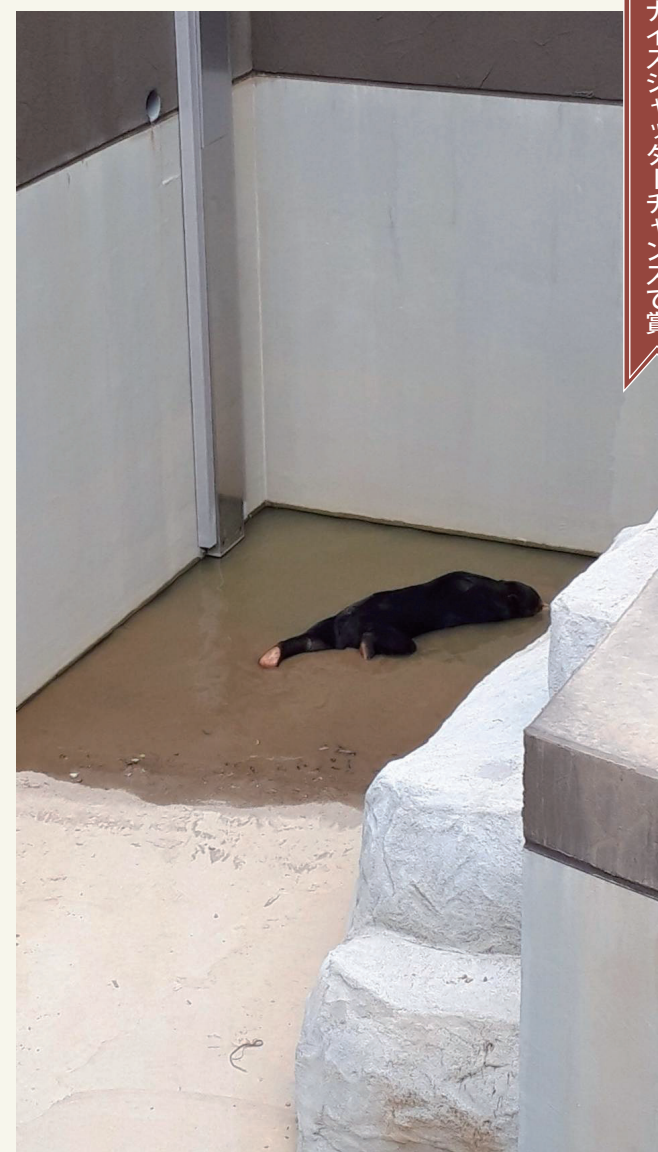
リラックスのタイミングで賞

3位
カンムリワシ
投稿者：ikumozasaba



蜂蜜水が大好きで賞

3位
マレーグマ（マーズ）
投稿者：theyareneverkillers



ナイスシャッターチャンスで賞

1位
マレーグマ（マーズ）
投稿者：ayakanaryouta